

令和3年度事業実績

資料1

1 収 集

(1) 目 的

優れた美術品を「県立美術館作品収集方針」に基づいて体系的に収集し、美術品の量的、質的な充実を図る。

(2) 収集方針

- ・17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画の収集に努める。
- ・ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
- ・20世紀以降の美術の動向を示す作品の収集に努める。
- ・静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。
- ・富士山をモチーフとした作品の収集に努める。

※作品保有状況 (令和4年3月31日現在) (単位：点)

作品保有状況	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
	361	263	52	105	1,365	347	89	10	64	92	2,748
主要収蔵作品	考える人、地獄の門、カレーの市民（ロダン）、ルーアンのセーヌ川（モネ）等										
基金保有作品	家畜番の少女（ゴッホ）、サン・トロペ、グリモアの古城（シニャック）、武蔵野図屏風（作者不詳）蘭亭曲水図屏風（久隅守景）、石橋のある風景/水車のある風景（フランソワ・ブーシェ）、富士之図（黒田清輝）										

<令和3年度の取得>

【購入作品（計5件）】

ジャンル	作者名	作品名	購入額（千円）
西洋	ルイ＝ジャン・デプレ フランチェスコ・ピラ ネージ	ポッツォーリのセラピス神 殿	1,601
	アントニオ・カナル （カナレット）	ランタンのあるポルティコ	3,869
日本画	狩野探幽	王冕原本 墨梅図	2,200
	狩野立信	（倣日観）葡萄図	1,000
現代	齋藤司郎	タイトル不詳	800
合 計			9,470

【寄贈作品（計9件）】

油彩画 中西夏之「グレーの中の白い旋回Ⅲ」ほか8件

2 展 示

(1) 目 的

県民に国内外の優れた美術作品の鑑賞の機会を提供するため、各種の美術展を企画・開催した。

(2) 令和3年度展覧会開催結果

(令和4年3月31日現在)

展覧会名		会 期	観覧者見込(人)	観覧者実績(人)
企 画 展	ストーリーズ	4/6～5/16 (36日間)	10,000	5,498
	忘れられた江戸絵画史の本流	5/22～6/27 (32日間)	10,000	5,661
	古代エジプト展	7/10～9/5 (51日間)	63,000	31,331
※収蔵品展			6,000	2,619
計			89,000	45,109
移動展	浜松市美術館	10/22～12/3 (32日間)	12,000	8,138
計			101,000	53,247

※収蔵品展

収蔵品を幅広くご覧いただくため、日本画や西洋絵画、現代美術等ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成する令和3年度収蔵品展は次のとおり。

展覧会名	会期
新収蔵品展	4/6～5/16
江戸狩野派の古典学習	5/18～6/27
構図をめぐる	6/29～9/5

◎企画展、収蔵品展の観覧者数内訳は、資料2

3 教育普及事業

(1) 実技系イベント・学校連携等

ア 目的

県民の創作意欲に応える実技系事業及び学校と連携した教育普及プログラムを実施するとともに、展覧会に関連した各種普及事業を開催する。

(令和4年3月31日現在)

事業内容			事業実績(見込み)
教育普及プログラム参加者総数(体験+講義+学校連携)			3,661人(6,443人) ・プログラム数31本
教 育 普 及	体験	県民の創作意欲に応える実技系事業の開催(創作週間、ロダン館デッサン会、ねんど・えのぐ開放日、わくわくアトリエ等)	871人(1,930人) ・プログラム数8本
	講義	特別講演会、美術講座、フロアレクチャー等の開催	1,276(2,565人) ・プログラム数16本
	学校連携	美術館教室等の開催(出張美術講座、職場体験等)	1,514人(1,948人) ・プログラム数7本

(2) ロダンウィーク

平成26年度にロダン館開館20周年を契機に立ち上げたロダンウィークは、令和3年度においては工事休館中であったことから開催を見送った。

(3) 地域連携

ア 県立美術館ボランティア

当館ボランティアは開館前年に設立され、活動に修正を加えながら運営してきている。当初はボランティアに任期はなかったが、平成22年度からは3年の任期制を導入した。本来であれば令和3年度に募集を行う予定であったが、コロナ禍の状況と現ボランティアに活動して頂けていないことから、希望者のみ任期を1年延長できることとし、募集については1年延期とした。延長の希望者は102名であった。

- ・活動期間（任期）：平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）
- ・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

イ 県立美術館友の会

友の会は、県立美術館の活動を後援することによって、芸術文化の向上を図ることを目的とする親睦団体である。新型コロナウイルス感染拡大状況に留意しながら、会員向けのフロアレクチャーや実技講座、講演会などのほか、県外美術館への研修旅行や現地見学を含む館長講座などを、可能な形で開催した。また、会員が編集した友の会だより「プロムナード」を年2回（4月・10月）発行した。

ウ ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を図った。

- ・「文化の丘フェスタ」の実施

「文化の丘フェスタ」の周知を図るため、毎年ムセイオン7施設を巡るスタンプラリーを実施しているが、令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大によりイベントが少ないこと、県大や美術館に一般の方が入れないこと、イベントの開催により感染を拡大する可能性があることなどの理由から、WEBアンケート方式を利用したクイズラリーを令和3年10月19日（火）から令和3年11月7日（日）まで実施した。

エ 草薙商店会等との協働

草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダン・ウィークに「丘の上のロダンマルシェ」を毎年開催していたが、工事休館中であり、実施しなかった。

(4) 企業との連携

ア 企画展における企業との連携による効果

(ア) 「古代エジプト展」

館内レストランにおいて、特別メニューとして「ピラミッドカレー」を提供した。

(5) 教育機関との連携

ア 職員による教育支援等の講義

- ・ 博物館実習（8月9日～13日、3大学4名受け入れ（オンラインにより実施））
- ・ 静岡文化芸術大学 公開講座シンポジウム登壇（令和3年11月14日）
- ・ 静岡大学 出講（地域創造演習ⅡA、地域文学文化基礎論Ⅰ、令和3年5月25日）
- ・ 静岡大学 出講（地域の人と文字文化、令和3年7月5日、12日）
- ・ 広島市立大学 出講（芸術学研究Ⅰ・Ⅱ、芸術理論、令和3年10月28、29日）
- ・ 静岡文化芸術大学 出講（美術史（西洋）Ⅱ 特別講義、令和4年1月20日）

イ 各学校の美術館利用促進

年度末に、県内小・中・高・特別支援学校へ年間スケジュール・美術館教室のしおり等を配付した。令和4年度に向けては、鑑賞のポイントなどを記載した企画展利用案内を併せて配布し、当館の利用促進に努めた。

4 調査研究活動

(1) 学芸課研究会の実施

毎月1回のペースで学芸課職員による研究会を実施した。発表時間約40分の後、質疑応答20分。

研究会のテーマは自由に設定し、発表後は館長及び課員との質疑応答を行うことで、研究成果を共有し、有益な示唆を得る機会となった。

※令和3年度実施状況

- ① キッチンとは何か 石子順造の「キッチン論」（令和3年6月 川谷承子）
- ② 掛川藩御抱絵師・村松以弘の画業（令和3年7月 浦澤倫太郎）
- ③ ロダン館を中心とした照明環境改善について（令和3年9月 新田建史）
- ④ 鍛冶橋狩野家における中国絵画学習の問題—狩野探信守道・探淵守真ほか《摹宋元画冊頁》（ボストン美術館）の考察（令和3年10月 野田麻美）
- ⑤ 中村貞以《臙》について（令和3年11月 石上充代）
- ⑥ 《ポッツォーリのセラピス神殿》について（令和4年1月 南美幸）
- ⑦ 天地耕作について（令和4年1月）
- ⑧ 静岡県立美術館実技室と他の都道府県立美術館の新型コロナウイルスまん延防止策とその後について（令和4年2月 奥村祐喜）
- ⑨ ケル=グザヴィエ・ルーセル作版画集『風景』について（令和4年3月 貴家映子）

(2) 美術館研究紀要の発行

2本の論文を収録した。

ア 南美幸「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について2—絵画館の翻訳と解題」

イ 浦澤倫太郎「原在正「富士山図巻」の再検討—描かれた風景の虚実—」

5 広報

様々な広報手段を活用して県内外への広報を推進し、さらに、企画展の共催者や協賛企業等との協働による広報を進めた。

(1) 広報活動

- ア ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、YouTube による情報発信と、訪問者の情報解析等
- イ 展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- ウ ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- エ 県広聴広報課との連携（県民だより）
- オ 広報サポーターへの情報提供
- カ 展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- キ 企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図った
- ク 美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ケ インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトでの情報発信

(2) 県有文化施設と協働した広報

- ア 「文化の丘フェスタ 2021」におけるクイズラリーに参加
- イ 「忘れられた江戸絵画史の本流展」では、展覧会に併せて「江戸狩野派総選挙～あなたはだれを推しますか～」と題して、狩野絵師 10 人による選挙イベントを館内及び県立中央図書館で開催した。

(3) 新たな取組み

- ア **静岡県立美術館デジタルアーカイブの整備**
収蔵作品の約 8 割の画像をデジタル化し、作品・作家情報と併せて公開
- イ 「ストーリーズ」展では県立大学事務局に依頼しメーリングリストにより広報を行った。
- ウ 「忘れられた江戸絵画史の本流展」において、県内小・中・高校へ利用案内通知を送付した。
- エ 「古代エジプト展」においては、美術館周辺大学へ事務局を通じて広報を行った。
- オ 「移動美術展」では開催地にある静岡文化芸術大学事務局に依頼し、メーリングリストにより広報を行った。
- カ 「忘れられた江戸絵画史の本流展」ではARTPR などオンライン・プレスリリースの積極活用により、インターネット、新聞、TV など多数のメディアに取り上げられた。
- キ **県観光協会主催のオンライン教育旅行説明会に参加**

6 環境・施設整備

エントランスホールでは、特定天井の改修工事と照明を更新した。照明については、間接照明を増やすなど、エントランスの環境を改善した。また、2階展示室の照明の更新、壁の塗り替えなどを行い、作品を展示・鑑賞する環境を改善した。

7 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

(1) 展示

「県有施設における感染防止方針」に基づく感染防止対策を講じた上で展覧会を開催した。

- ・関係機関から最新情報の収集に努め、感染予防、感染防止に最新の注意を払う。
- ・スタッフのマスク着用、受付への飛沫防止シールド設置、手指消毒液の設置、サーモグラフによる検温で体温を確認等、感染症拡大防止への対策を実施する。
- ・マスクを着用していない方の入館をお断りする。

- ・混雑した場合は入場制限を実施する。
- ・「古代エジプト展」において事前予約システムを導入した。

(2) 教育普及

徹底した感染症対策を行いながら、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、教育普及活動に努めた。新型コロナウイルス感染症の状況は、年度当初より当県の評価レベル4以上で推移し、開館期間中は状況が悪く、体験や学校連携のプログラムの中止が多かった。特に、8月には評価レベルが6になり、まん延防止等重点措置および緊急事態宣言が発令されたため、実技室プログラムが全て中止になった。一方、講義のプログラムについては、定員数の調整やオンライン対応によって、予定した事業は全て実施ができた。

ア 体験

定員削減やプログラム内容の検討等を行い、事業を実施した。参加者の連絡先の把握や道具の共有の回避などを行った。事業の中でも感染リスクが高いと考えられる「ちょこっと体験」は、2本のうち1本が中止となった。「ねんど開放日」、「えのぐ開放日」では、定員削減や予約制を導入して計画した。前者は5日間のうち3日間中止、後者は予定していた2日間とも中止となった。「わくわくアトリエ」は中止はなく、3回のうち1回は講師がオンラインで指導した。実技講座は2本中1本が中止。創作週間は7月までの21回は実施し、8月の5回が中止となった。

イ 講義

新型コロナウイルス感染症の状況や講師の居住地等を考慮しながら、実施の可否の検討やオンライン対応等を行った。定員数については、状況に応じて、本来の部屋の定員数の半減や3分の1減に調整した。「特別講演会・シンポジウム」のうちの2本は、講師のみオンラインとする対応をとった。フロアレクチャーについては、ハンズフリー拡声器を用い、コロナ禍以降はじめて実施があった(2回)。中止となった事業はなかった。

ウ 学校連携

「ねんど教室」「えのぐ教室」については、定員を半減し、他団体との合同での参加は不可とすることで、感染リスクの低減を図った。「ねんど教室」は8日間のうち4日が中止、「えのぐ教室」は3日間を予定したが全て中止となった。教材貸出については、貸出間隔を2週間空けることで、感染リスクの低減を図った。教員研修については、主催者判断で中止となった。また、令和2年度から引き続き、「美術館の秘密をさぐれ」、「ボランティアとの鑑賞」は中止した。

(3) 県立美術館ボランティア

昨年に引き続き、図書閲覧室グループ、資料整理グループ、実技室グループは再開している。地域連携・草薙グループは茶園管理のみの一部分のみの活動となっている。リスクの比較的高い、学校グループ、ギャラリーツアーグループ、タッチツアーグループは令和3年度も休止した。そのため、活動休止中のグループは、代替の活動として、図書閲覧室グループの活動に参加できるようにした。また新たに当館公式Facebookにおすすめの館所蔵品を紹介する活動を新設し、どのグループからでも参加できるものとした。